



2月27日、平成26年3月鹿屋市議会定例会本会議で所信表明を述べる中西茂市長



▲ 平成26年3月議会本会議

# 所 信 表 明

## “市民が主役の 明るい未来づくり”

2月27日に開催された平成26年3月鹿屋市議会定例会本会議で、中西茂市長が所信表明を行い、今後4年間の市政運営についての基本的な考え方を述べましたので、その内容について紹介します。

平成26年3月鹿屋市議会定例会の開会にあたり、平成26年度当初予算をはじめとする諸議案の説明に先立ち、市政に関する所信の一端を申し上げ、議員並びに市民の皆様の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

我が国の経済は、政府の経済政策いわゆるアベノミクスの実施により、大都市を中心に企業業績や雇用情勢が改善傾向にあり、本年2月の政府月例経済報告においても「景気は、緩やかに回復している。」との判断が示されています。

しかしながら、急激な円安の影響や消費税増税の駆け込み需要の反動、海外景気の下振れリスクなど、今後も先行きを注視していく必要があります。

この3つの基本方針に基づき、5つの戦略を展開してまいりたいと考えています。

まず、1つ目に「**雇用と所得につながる産業をおこすまちづくり**」については、産業の振興と雇用の場の確保による強固な経済基盤があってこそ、地域の発展と活性化が実現できると思っております。

このため、**○基幹産業である農業を攻めの農業に転進し、地域産業を牽引する（仮称）かのや農業・農村戦略プラン」の策定**

**○市内の企業が製造した製品を市が購入・使用し、実績や信頼性を確立して販路拡大を図るトライアル発注制度の創設**

**○県が整備する大隅加工技術拠点施設を活用した、6次産業化の推進と食品加工工業の立地促進**

**○太陽光をはじめ、地域に賦**

このような中、地方自治体においては、厳しい財政運営に加え、高齢化と人口減少が同時進行する状況にあり、難しい舵取りが求められています。持続可能な地域社会を実現するためには、今こそ、地域の資源と特性を生かし、自立した活力ある地域社会を構築していかなければなりません。

### 市政運営の基本姿勢

このように時代が大きく変わるうとする中、鹿屋・大隅地域では、東九州自動車道、志布志港、肝属中部畑地かんがい、大隅加工技術拠点施設、佐多岬観光整備など、地域発展の基礎となる数々の社会資本整備が進められています。

私は、この大事な時期に、いかなる課題に対しても情熱とスピード感を持ってチャレンジしてまいります。

存する木質及び家畜排泄物バイオマスや、小水力など再生可能エネルギーを活用した民間事業の促進

など、関係者の皆様方と連携し、雇用の拡大と市民所得の向上につながる施策を展開してまいります。

2つ目に「**広域連携を積極的に推進するまちづくり**」については、本市は大隅地域の中心市として、地域全体の発展を牽引していくことが必要であると考えています。

このため、これまで以上に積極的に大隅総合開発期成会や大隅定住自立圏構想の取組など広域行政を推進し、地域に共通する課題の解決を図ってまいります。

主な取組としては、**○豊富な農林水産物や豊かな自然環境、鹿屋体育大学など、大隅地域の優位性や未利用資源を掘り起こし、産学官連携による観光・スポーツ・食を通じた体験型広域観光の推進**

ンジし、本市の未来を確かなものにするのが、市民の皆様から託された責務であると考えています。

このため、市民の皆様と一体となり、鹿屋・大隅地域を前進させ、豊かさと温もりを実感できる『市民が主役の明るい未来づくり』に取り組んでまいります。

### 市政運営の3つの基本方針と5つの戦略

私は、『市民が主役の明るい未来づくり』を支える柱として、

**○雇用と所得につながる産業おこし**

**○みんなで築く安心・安全でやさしい地域づくり**

**○笑顔があふれる元気百倍の人づくり**

**○優れた食材や加工品を活用した大隅ブランドの構築と販路開拓の支援**

**○市民生活の利便性向上や交流を促進する広域交通ネットワークの充実・強化**  
など、鹿屋・大隅地域の資源・特性を生かすとともに交流を促進し、地域経済の活性化と市民生活の向上に努めてまいります。

3つ目に「**笑顔あふれる安心・安全なまちづくり**」については、安心して子どもを産み、育てやすい環境をつくることに、すべての市民が健やかに生活することができ、人にやさしい社会を実現するため、

**○中学生までの医療費の無償化、保育料の負担軽減、児童クラブの拡充など子育てを支える制度・環境の充実をはじめ、**

**○医療機関等と連携した産科医療体制や緊急医療体制の充実・強化**